
瀬川おんぶ誘拐事件

ユーリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

瀬川おんぶ誘拐事件

【Zコード】

Z4572A

【作者名】

コーリ

【あらすじ】

人気チャイドル・瀬川おんぶが、何者かに誘拐された！！しかも魔女だと見破られて、魔法も使えず大ピンチ…！どれみ達が助けに向かうんだけど……。

プロローグ（前書き）

この作品は、「おジャ魔女どれみドッカーン！」を題材にしたモノです。本編では見られなかつたどれみ達の意外な表情が出るかも？長々となりましたが、本文に移りましょう。

プロローグ

私の名前は瀬川おんづ。

美空小学校に通う6年生。

私は売れっ子のチャイドルなんだけど、他の人にはいえない秘密を持つてるの。

私、実は魔女見習いなんだ。

私の他にも6人の魔女見習いがいて、一緒に魔女修行をしてるんだ。

春風どれみちゃん、藤原はづきちゃん、妹尾あいこちゃん、飛鳥ももこちゃん、そして赤ちゃんから6年生になっちゃった巻機山花ちゃんなど、どれみちゃんの妹のぽっぷちゃんがいるの。

私達は、魔女修行の真っ最中なんだけど、ハプニングもよくあるのよね。

そして、またもハプニングが……。

プロローグ（後書き）

どうも「おんぷ」ちゃん。まだプロローグなので短いです。おんぷちゃんにはたしてどんな事件がふりかかるのか！？さて次回は、「おんぷちゃん、誘拐される！」です。

おんぶりやん、誘拐されるー。

9月1日、私はいつもの調子で田が覚める。

まず鏡で髪をチョックして、ブラシで整え、私は階段を降りた。

私の名前は、瀬川おんぶ。

売れっ子のチャイドル。

今日母は、朝早くからオーナーであるマジヨルカとスケジュールの調整で、いなかつた。

そんなワケで、私は朝ご飯を作り始める。

「アイドルは家事なんてできない」って言う人がいるけど、そんなのただのウソッパチ。

私だつて、お料理ぐらこできるのよ。

できあがつた朝ご飯を食べながら、私は今日の朝刊に田を通す。

おんぶ

「「連續少女誘拐殺人事件・・・ついに6人目の犠牲者」か・・・」
そういえば、前にはづきちゃんが誘拐された事があるって、どれみちゃん達が言つてたつけ・・・」

あれは4年前、私がまだどれみちゃん、はづきちゃん、あいこちゃん
と会う前の事。

一度だけは、づきちゃんが誘拐された事があると、どれみちゃんに聞かされた。

犯人は、パパイヤ兄弟つていうお笑い芸人で、結局は、づきちゃんを解放したらしい。

時々、はづきちゃんが借りてきたビデオを見せてもらうんだけど、私はその2人のビデオを見るたびに、笑ってしまっていた。

この2人のギャグが、なかなかおもしろいのである。

はづきちゃんって、SOSトリオのギャグで大爆笑したり、私達とは少しちがうセンスを持っている。

その点では、杉山君と小倉君の漫才に大爆笑するももじちゃんも、似たようなモノなのだろうか。

私はランドセルを背負つて、家を出て学校に向かった。

しかしその時、私の事をつけていた怪しい人影がある事に、私は気づいていなかった。

学校に着くと、いつものように授業が始まる。

私の席はあいだちゃんとせづあわせんの近く。

どれみちゃんのクラスとちがいこのクラスではチョークが飛んでしないので、少しおしゃべりしても大丈夫だ。

関先生のチョーク投げ、ものすごく怖いんだよね。

いつものように、授業中にうそりオトリオがギャグを言い始めた。

やつぱり寒い。

クラスのみんなが凍つた。

でもはづきちゃんだけ、爆笑している。

私も、今日は少しだけ笑う事にした。

今頃どれみちゃん達のクラスでも、杉山君と小倉君のギャグでももちやんが爆笑している事だらう。

学校が終わり、MAHO堂に行く時間になつた。

今日は私も仕事がないので、MAHO堂に行ける。

今日もたくさんアクセサリーが売れた。

私は、どれみちゃん達の仲間になれて本当にうれしいと思った。

今日はみんな早めに切り上げ、私達は解散した。

帰り道、私はせっかくなので、いつも通らない人通りの少ない裏道を通つて帰つていた。

しかし、これがまちがいだつた。

私の後ろに、怪しい人影が迫つてきていたのである。

おんぶ

「うつ！…！」

突然、私は背後から何者かに口をハンカチで塞がれ、羽交い締めにされてしまった。

私は必死にもがいたけれど、相手は男だつたらしく力が圧倒的に強かつた。

しかも、ハンカチにクロロホルムか何かの睡眠薬が染み込ませてあつたらしい。

おんぶ

「うう・・・」

私は気が遠くなつていき・・・次の瞬間、私は気を失い、倒れ込んだ

でしまつた・・・。

おんぶちゃん、誘拐されたるー。（後書き）

おんぶちゃん、誘拐されてしましましたね・・・。犯人はいつたい、何者なのでしょうか？次回は、「おんぶちゃん、監禁されたるー。」です。

おんぶぢやん、監禁される！

おんぶ

— ん
・
・
・
・ う
う
・
・
・
・
・

しばらくして、私はようやく目が覚めた。

まだ頭がクラクラする。

あの時、妙な薬を嗅かされたからだるさ

起き上がり、とした私は自分の状態に気がついた。

おんぶ

「！！！んっ！んんっ！」

なんと私は、手足を繩でグルグル巻きに縛られ、倉庫のような所に寝かされていたのだった。

さらに、口にもガムテープが貼られていて、声が出せなくなつてい
た。

私は声を出そうとしたが、口にガムテープが貼られているせいで、ん～ん～としか声が出せない。

私は落ち着いて、今までの出来事を頭の中で整理してみた。

おんふ

「（そうだわ！私、MAHO堂を出て、いつも通らない裏道を通り帰つてたんだ。そうしたら、突然後ろから誰かに口をハンカチで塞がれて、羽交い締めにされて・・・そしたら、急に気が遠くなつて・・・あの薬、とてもイヤな匂いがしたわ・・・たぶん、クロロホルムだと思うんだけど・・・）」

私は推理ドラマなどにも何度も出演しているため、クロロホルムを嗅がされた経験もあつた。

あの薬は、1時間以上は麻酔の効果で眠つてしまつ薬だ。

だが、薬局でも簡単に手に入らない薬のはずなのに、どうして・・・？

おんふ

「（もしかして、犯人は誘拐のプロ・・・？あ！）」

私の脳裏に、ふと朝刊で読んだ連続少女誘拐殺人事件の犯人が浮かんだ。

確かあの犯人も、クロロホルムを使つていたって書かれていたっけ・・・

おんふ

「（もしかして、あの犯人が私を・・・？）」

そう考えた瞬間、私は体がビクビクふるえた。

おんぷ

「（私も、あの事件の犠牲者になつてしまつたの……？そんなの、イヤだわ……！）」

私がそんな事を考えていると、誘拐犯らしき男が倉庫に入ってきた。

「お田覚めはいかがかね？瀬川おんぷちゃん。」

おんぷ

「（最悪よ……）」

私はそう思ひながら、男をにらみつけた。

男は、笑っている。

「君は私を知らんだろうが、私は君や仲間の事をずっと見てきてたんだよ。魔女見習い……」

おんぷ

「（バ、バレてる！……？どうしよう……）のままじや魔女ガエルになつちゃう！待てよ？魔女ガエルになつて小さくなつた方が繩から抜けられるかも……あれ？魔女ガエルになつてない……！」

そう、私は一般人に正体を見破られたにもかかわらず、魔女ガエルになつていないので……！

その疑問は、男の次の言葉ですぐにわかつた。

「君は魔女ガエルにはならんよ。なんせ、私は魔法使いだからな。」

おんぷ

「（なー?）の人、魔法使い!?!?」

私は驚愕した。

誘拐犯がまさか魔法使いだつたなんて・・・。

おんぷ

「（どうする?私・・・。）」 そうだわ、相手が魔法使いなら魔法で戦える!魔女見習いに変身して・・・。あれ・・・?ウソ!?「ロンタップがない!?!」

なんと、私のポケットにいつも入れているロンタップがないのだ!!

「お探し物は、これかな?」

おんぷ

「!!（ロンタップ!?!?）」

私のロンタップは、男に奪われてしまつていた!!

「これがなければ、君はただの女の子だ。さあ、どうしようか・・・。

「

おんぷ

「（そ、そんなあ・・・私、どうすればいいの・・・?どれみちゅ

ん・・・はづあらちゃん・・・あいちちゃん・・・ももちちゃん・・・
つづりちゃん・・・ハナちゃん・・・お願ひ・・・私を・・・私を助
けて・・・!—!—!」

おんぶちゃん、監禁されるー。（後書き）

おんぶちゃん、捕まつてしましました！しかも、犯人が魔法使いだなんて、大ピンチかも！？次回は「おんぶちゃん、SOS！」です。

おんぶちゃん SOS!

私の名前は瀬川おんぷ。

美空小学校の6年生で、魔女見習いをやつている。

私は魔法使いに誘拐され、見知らぬ倉庫に監禁されてしまつた。

私は今、手足を「一」字でケルケル巻きに縛られ、口にガムテープを貼られて口を塞がれてしまつてゐる状態だ。

私は繩をほどこうとして、必死にもがいていた。

「んつ・・・んんつ・・・（ダメ・・・私の力じや、ビクともしな
いわ・・・魔法が使えたら、こんな縄、簡単に切れるのに・・・！
！」

そう、魔法さえ使えれば、繩なんて簡単に切れるはずだつた。

ところが、私のコロンタップは今、誘拐犯である魔法使いに奪われてしまっていた。

おんぶ

「どうしよう？……？ 私、大ピンチだよぉ……（うひ、うひ、うひ）」

私は、怖くて泣いていた。

魔法使いは、そんな私を見て、笑っている。

「魔女見習いっていつたって、しょせんはただのガキだな・・・しかし、なぜあの方は、こんな魔女見習いばかりを狙えって言つんだろ・・・？」

おんぶ

「（え？どういう事！？今までの犠牲者って、みんな魔女見習いだつたの？？そういえば、犠牲者の首に何かでシビレさせられた跡があるって、書いてあつたわ！じゃあ、もしかしてこの人の目的って・・・）」

「やつと戻づいたようだな・・・」

魔法使いはそう言つと、私にズイズイと近寄つてきた。

おんぶ

「・・・んんつ・・・」

「私の目的は、近い将来あの方をおびやかす存在になるであろう魔女見習いを、抹殺する事！」

おんぶ

「（どうか、それでこの事件、誘拐なのに身代金の要求がまったくなかつたのね・・・今、ようやく謎が解けたわ！..あれ？待てよ・・・？じゅ、じゅあ私も！？）」

「フフフ……今頃氣づいても、もう遅い……」

おんぷ

「ん~…」

「心配するな、まだ殺しゃしねえよ。ただし、夜明けまでは、だがな……ハハハハハ……！」

おんぷ

「（みんな……早く助けに来て……!）

おんぷが絶体絶命の危機に陥っている頃、どれみ達はMAHO堂にいた。

どれみ

「マジヨリカ、おんぷちゃんがまだ家に帰っていないって本当ーー?」

マジヨリカ

「ああ、さつきマジヨルカのお供のへへが来てな、電話を何度もかけているのこいつこいつに圧ないんだそうだ……」

はづき

「おんぷちゃんの身に何かあったのよー」

あいこ

「どれみちゃん、マジカルステージやー！」

どれみ

「うんー、マジヨリカとララはマジヨルカを呼んできー！」

マジヨリカ

「よしー！」

マジヨリカとララは、マジヨルカを呼びに行つた。

どれみ

「じゃあみんな、いくよー！」

はづき・あいこ・ももこ・ハナ・ぽつぽ

「ええーー！」

どれみ

「ピコカピリララのびやかにー・・・」

はづき

「パイパイポンポイしなやかにー・・・」

あいこ

「パメルクラルク高らかにー・・・」

「もも」

「ペルタンペッシュンをわやかに～・・・」

「ぱつぶ

「ペラシトフリットモガリカニ～・・・」

ハナ

「ポロリンピュアリン清らかに～・・・」

「どれみ・はづき・あっこ・もも」・ぱつぶ・ハナ

「マジカルステージ！～おんぶちゃんの居場所を教えて！～」

「どれみ達は、マジカルステージを使つた。

すると、何かが落ちてきた。

どれみ

「これつて・・・」

あっこ

「ビデオテープとリモコンやな・・・」

はづき

「入れてみましょ～」

「どれみはビデオテープをテッキにセッヂし、リモコンのスイッチを押した。

どれみ

「お、おんぶちゃん～！」

ビデオに映し出されたのは、1人の男に襲われているおんぶの姿だった。

ももこ

「おんぶちゃん、縄で縛られてるんだーだから抵抗できないんだよー！」

あいこ

「なんて事や・・・」

はづき

「巻き戻せば、どこに連れて行かれたかわかるかもしないわー！」

それはいつもである。

ビデオだから。

どれみはビデオを巻き戻した。

すると、犯人に薬を嗅がされたあと、車に連れ込まれるおんぶの姿が映った。

そのままビデオは進み、埠頭の倉庫におんぶがいる事がわかつた。

はづき

「あの倉庫つて、前に矢田君がトランペッタの練習をしてた所だわ・・・」

どれみ

「まひめちゃん、あこちゃん、ももめちゃん、ハナちゃん、行くよー。
まつふせいで待つてー！」

「うん。お姉ちゃん、がんばってねー！」

まつふをMACHO堂に残し、どれみ達はホウキに乗って飛び出した。

おんぶちゃん、SOS!（後書き）

いよいよ、どれみちゃん達がおんぶちゃんを助けに向かいます。しかし、犯人は魔法使い。一筋縄では行きそうにないですね。次回は「おんぶ救出！おジヤ魔女▽ワルジード！！」です！

おんぶ救出～おジャ魔女×ワルジー

謎の魔法使いに誘拐されてしまった瀬川おんぶを助け出すために、どれみ、はづき、あこ、ももい、ハナの5人は、埠頭にある倉庫に向かっていた。

マジカルステージで、おんぶがそこに監禁されている事がわかつたのである。

一方、倉庫に監禁されているおんぶは、絶体絶命のピンチにむかっていた。

「フフフ……柱よ、いどよ……」

魔法使いが杖を振ると、私の後ろに柱が現れた。

「ロープよ、下りてきて娘をつづ上げろ……」

再び魔法使いがつえを振ると、柱の出っ張った部分からロープが下りてきて、私を捕まえつり上げた。

おんぶ

「ん~…~（キャ~…~）」

私は柱につながれてしまった。

おんぷ

「ん~、ん~…。（降りしよ~…。）」

私はもがいているが、男は平然としている。

男が杖を振ると、私の足下に箱が現れた。

「今、電気が溜まつた箱を出した。この箱に君を落としたら、どうなると思~?」

おんぷ

「…。」

結果はわかっている。

そんな箱に私が落ちたら、感電死してしま~!~!

「フフフ・・・そろそろ箱に落としてやるか・・・。」

おんぷ

「ん~、ん~…。（た、助け~…。）」

男が私を箱の中に落とさうとした、その時だった。

どれみ

「そこまでよ~…。」

「何~?」

どれみちゃん達が助けに来てくれた。

お
ん
づ

「（み、みんな・・・）」

四
七

「パイパイポンポイプワプワプーーー！繩よ、消えろーーー！」

私は、真っ逆さまに落ちた。
はつきちゃんの呪文で、私は縛つていった繩は消えたが・・・

九二

「アカン！」のまじや落ちる！

八ナ

私力行く！」

ハナちゃんが突っ込んできて、落ちた私を受け止めてくれた。

私は助けられ、どれみちゃん達も私の周りに着地した。

ももこ

卷之三

おんぶ

- 11 -

そう言いつつも、私、とても怖かつたわ・・・。

あいこ

「ああ、覚悟しにや！」

「これで、私達の形成逆転かと思われたが……私は大変な事を思い出した。」

おんぷ

「みんな、気をつけて！那人、魔法使いなのよ！」

あいこ

「なんやで！？」

ハナ

「あなたは何者！？」

ワルジード

「フフフ……私はあの方の命により、瀬川おんぷを抹殺しに来た魔使い……ギリング・ワルジード伯爵だ……！」

どれみ

「名前はよくわかんないけど……あなたを倒すわー！みんな、行くよー！」

はづき

「おんぷちゃんも、早く着替えてー！」

おんぷ

「それが……私の『ロントップ』、アイツに奪われてて……」

あいこ

「そんな……どないせいつちゅうねん！」

ワルジード

「せひよー。」

ワルジードは私に「ロロンタップを投げた。

ワルジード

「魔法が使えないさや、フニアじやねえからなーー」「魔女見ぬこぞ
もー返り討ちにしてやるぜーー！」

ワルジードが念じると、倉庫にあった工具や何やらが身体に、四
大なロボットになつた。

あここ

「ロボットなんか出しそうで・・・卑怯やーー。」

ももい

「そんな事言つてゐる場合じやないよー。」

ワルジード

「ハハハハハー！踏みつぶしてやるーー。」

どれみ

「ペリカペリカラボボリナペペルトー。」

はづき

「パイパイポンポイフワフワフー。」

どれみ・はづき

「ロボットよ、凍れーー。」

どれみとはづきは呪文を唱えたが・・・効かない。

はづき

「効いてない！？」

あいこ

「今度はアタシやー・パメルクラルクラロリポッフンー・ロボットよ、
小さくなれーー！」

バシュンー！！

あいこ

「アカンー！」

おんぷ

「プルルンプルンフアミフアミフアーーー！」

ももこ

「ペルタンペットンパリラポンー！」

おんぷ・ももこ

「ロボットよ、燃えるーー！」

バシュンー！！

おんぷ

「これも効かない！？」

ハナ

「だつたら私が！－ポロリンピュアリンハナハナピー－ロボットよ、
バラバラになれ！－」

バシュン！－

ももこ

「ハナちゃんの魔法も効かない！－？」

ワルジード

「ムダだムダムダ！－1人が2人の魔法で何ができる！－」

どれみ

「そうか、全員で攻撃すればいいんだ！－」

ワルジード

「あ、しまった・・・」

どれみ

「ピリカピリララのびやかに！－・・・

はづき

「パイパイポンポイしなやかに！－・・・」

あいこ

「パメルクラルク高らかに！－・・・」

おんぶ

「プルルンプルン涼やかに！－・・・」

ももこ

「ペルタンペッシュトンやわやかに～・・・」

ハナ

「ポロリンピュアリン清らかに～・・・」

どれみ・ばづき・あいこ・おんぷ・ももこ・ハナ

「マジカルステージ！～ロボットを破壊して！～！」

どれみ達6人の力が合わさり、ロボットは大爆発した。

ワルジード

「くそ、よくも・・・」の仕返しは絶対にしてやるからな～！～！」

バヒュン！

どれみ

「あ、ワルジード逃げちゃった・・・」

あいこ

「なんや、弱いやつちやな～・・・」

おんぷ

「追いかけなくていいの？」

はづき

「おんぷちゃんが無事だったからそれでいいんじゃない？」

ももこ

「やうだね！」

ハナ
「これにて、
一件落着！！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4572a/>

瀬川おんぶ誘拐事件

2010年10月21日22時33分発行